
■安価で早い褥瘡治療法

2011年6月4日:学会発表

前橋外科医院

理事長

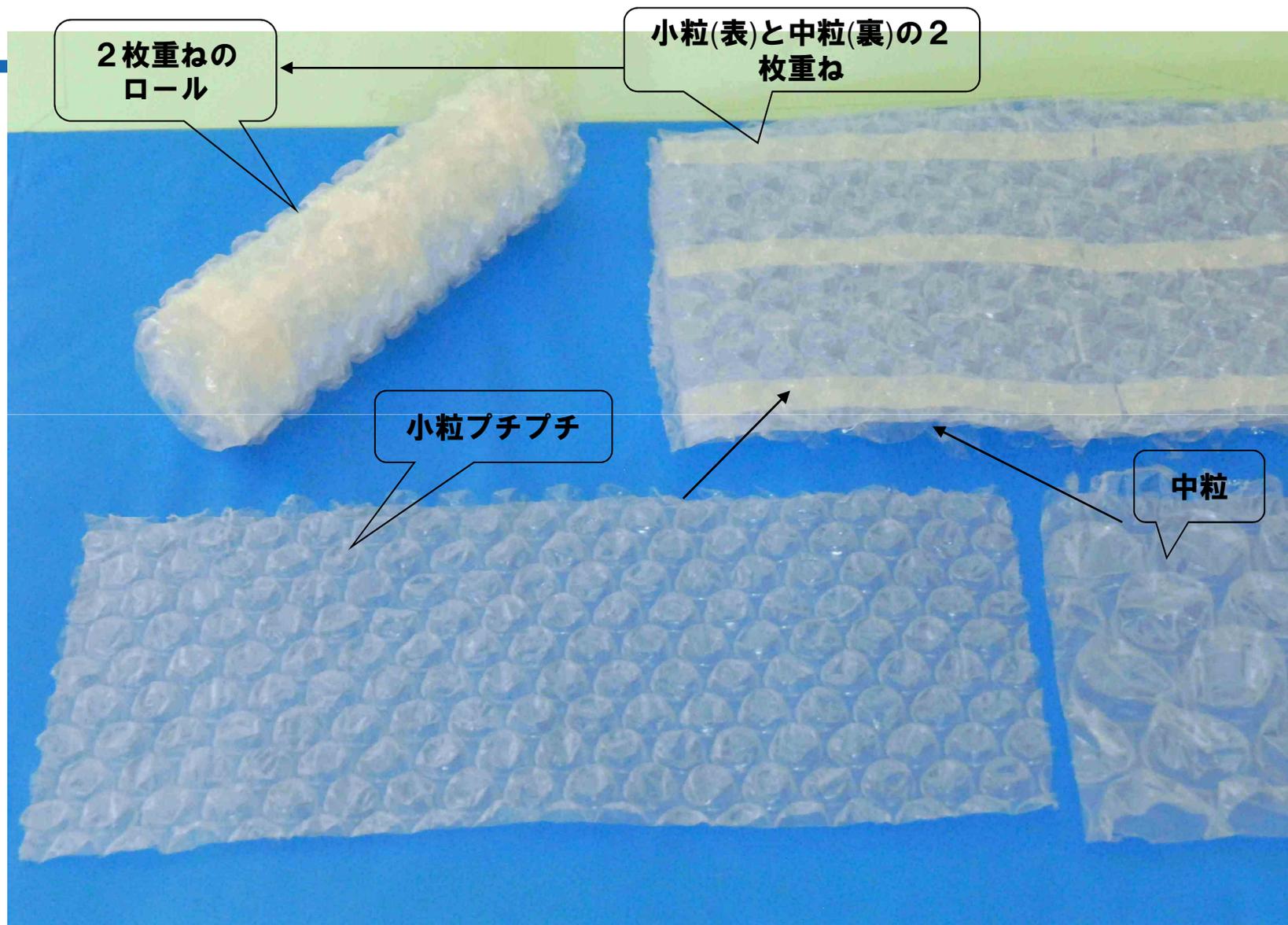
田中建彦

エアクッション法について

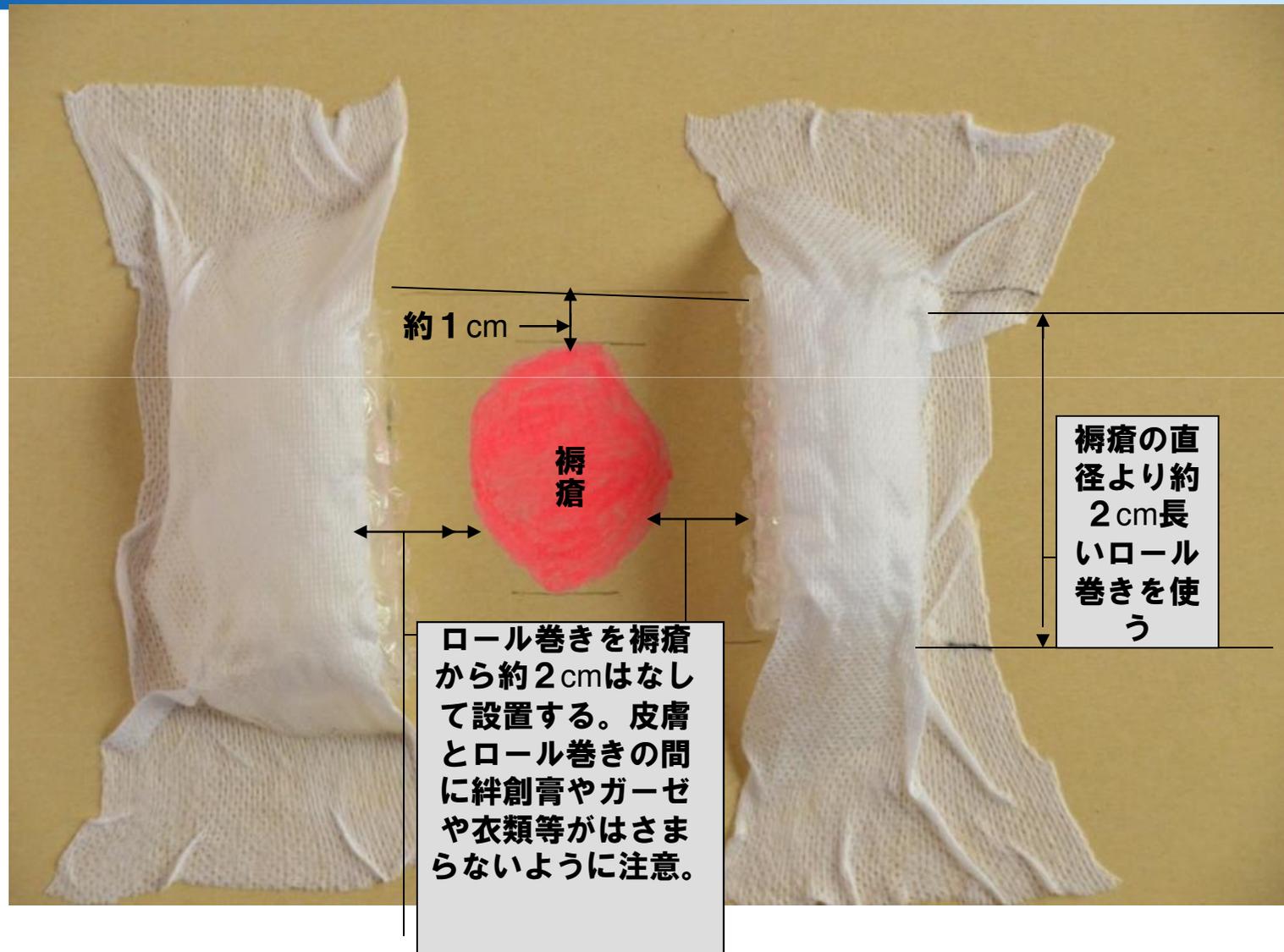
- 割れ物防止用の包装材: プチプチエアクション(別名エアキャップ)を使って褥瘡の治療や予防を安価に早く行うことができます。以後この方法をエアクション法と略します。治療には3種類の方法があり、①小粒のエアクションを矩形(縦約20~30cm:横は褥瘡の長さより約2cm長い矩形)に切ってプチプチ突起を外側に向けてロール巻きを硬めに作り紙絆創膏で、ほつれないように小さくとめる。このロール巻きを2本使って褥瘡を左右から挟むようにして皮膚に直接設置し幅広絆創膏(粘着包帯)で固定する。その際、創の辺縁から約2cmはなして設置する。(スライドNo2,3,4,参照)
- ②小粒のエアクションと中粒のエアクションとを両面テープで背中合わせにつけたもの(2層のエアクション)を作っておくと交換のときに簡単にロール巻きが作れて便利で、弾性もちょうど良く、小粒だけのロール巻きより長持ちする。但し、幅が5cm以上ないと中粒突起が切れてつぶれる可能性がある。この2層のエアクッションはそのまま予防にも使える。(2層1枚を褥瘡になりそうな部位に広めに皮膚に小粒突起が直接当たるようにのせて幅広絆創膏で固定して4~5日毎に変える。(スライドNo4の図3、参照)
- ③芯いりロール巻きは一番長持ちして適度な硬度のためつぶれにくく皮膚への接地面積がせまいのでその下を通る血流が多いため治癒速度も速く効果が良い。但し、腸骨陵のように極端に骨が突出している部分には硬いぶんだけ不安定で固定しにくいのが欠点。その時は中小2層のロール巻きの方が使いやすい。芯には使用済みノ20cc注射用ポリアンプルの 中身を完全に空にしてポリアンプルの周囲に小粒プチプチエアクションを3層に巻いて使う。(スライドNo,5参照)
- 以上3種類のロール巻きがあるが材料が小粒のものしか手にはいない場合は、①の方法でも充分です。この3種類のロール巻きはそれぞれ一長一短あり、創の状況や入手状況に応じて選べます。
- 褥瘡が大きく二つのロール巻きの間隔が4横指を超える時はロール巻きの上に割り箸の梁をのせる。(スライドNo:6参照)

エアクッション法は褥瘡部への血流を保持しながら除圧するため電動エアマットより治療効果が早いとおもわれる。

プチプチ エア クッション (別名 エアキャップ)



エアクッション法の模型



エア・クッションの使用法

図1

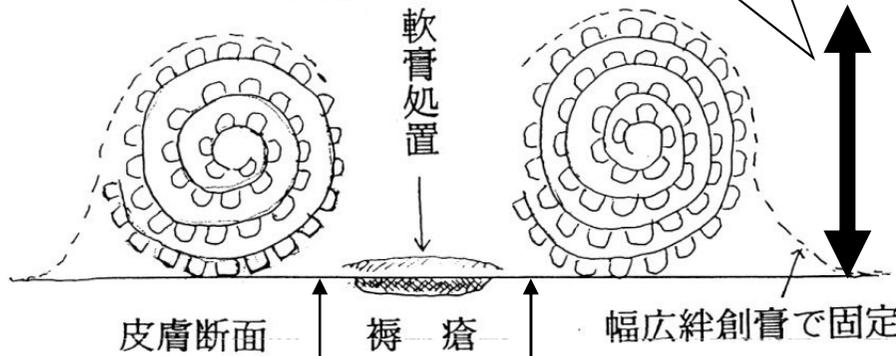
①小粒

プチプチ

①

エアクッション 断面

直径
3 ~ 4 cm

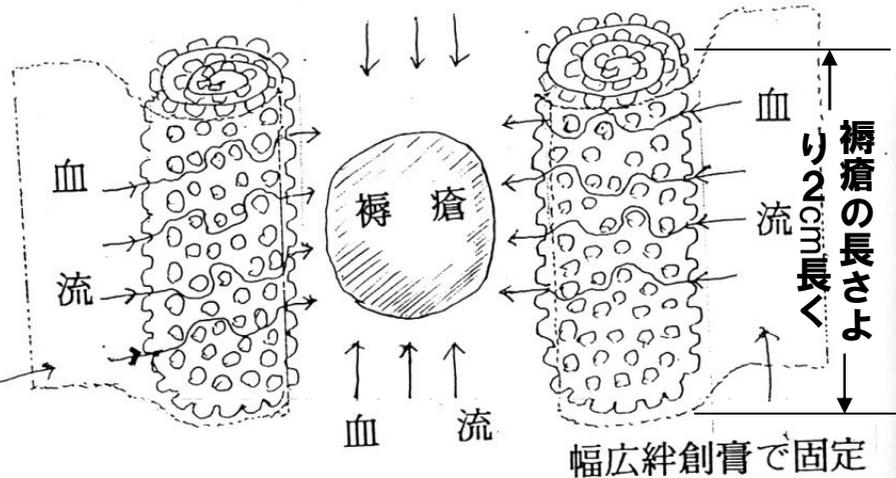


辺縁から約2cm離す

図2

褥瘡正対図

血流

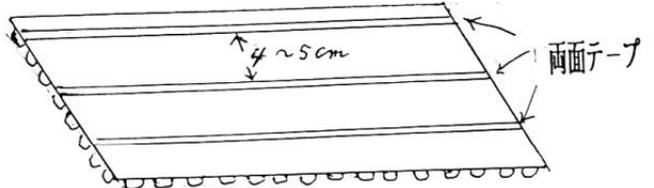


褥瘡の長さより
2cm長く

図3

②

中粒小粒プチプチ2層



中粒

小粒プチプチ

小粒

中粒
小粒

皮膚接触面は小粒の突起プチプチ

中粒プチプチ

ロール巻き

硬めに巻く

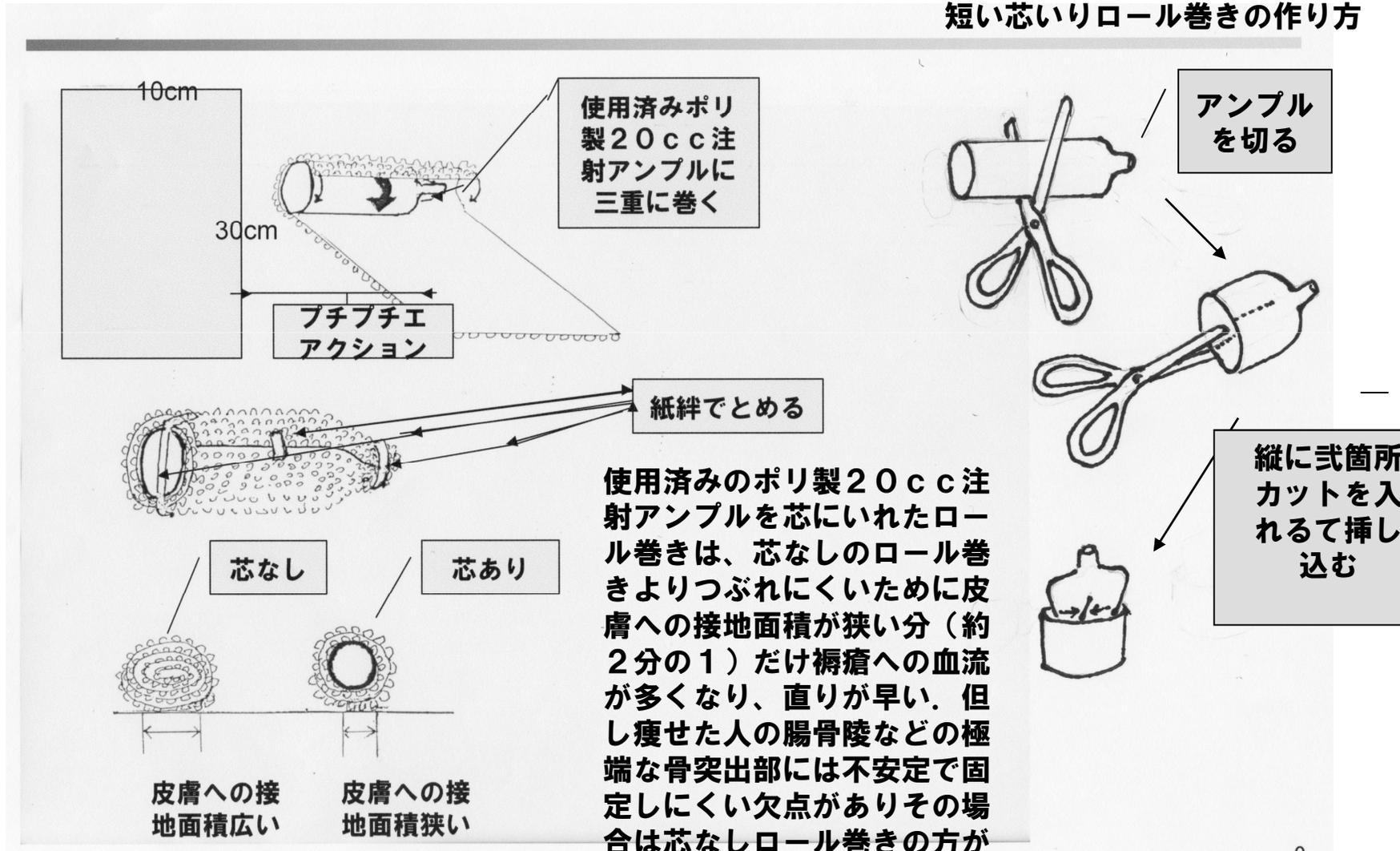
中粒プチプチ

ロール巻き後、
小さな紙絆でとめる

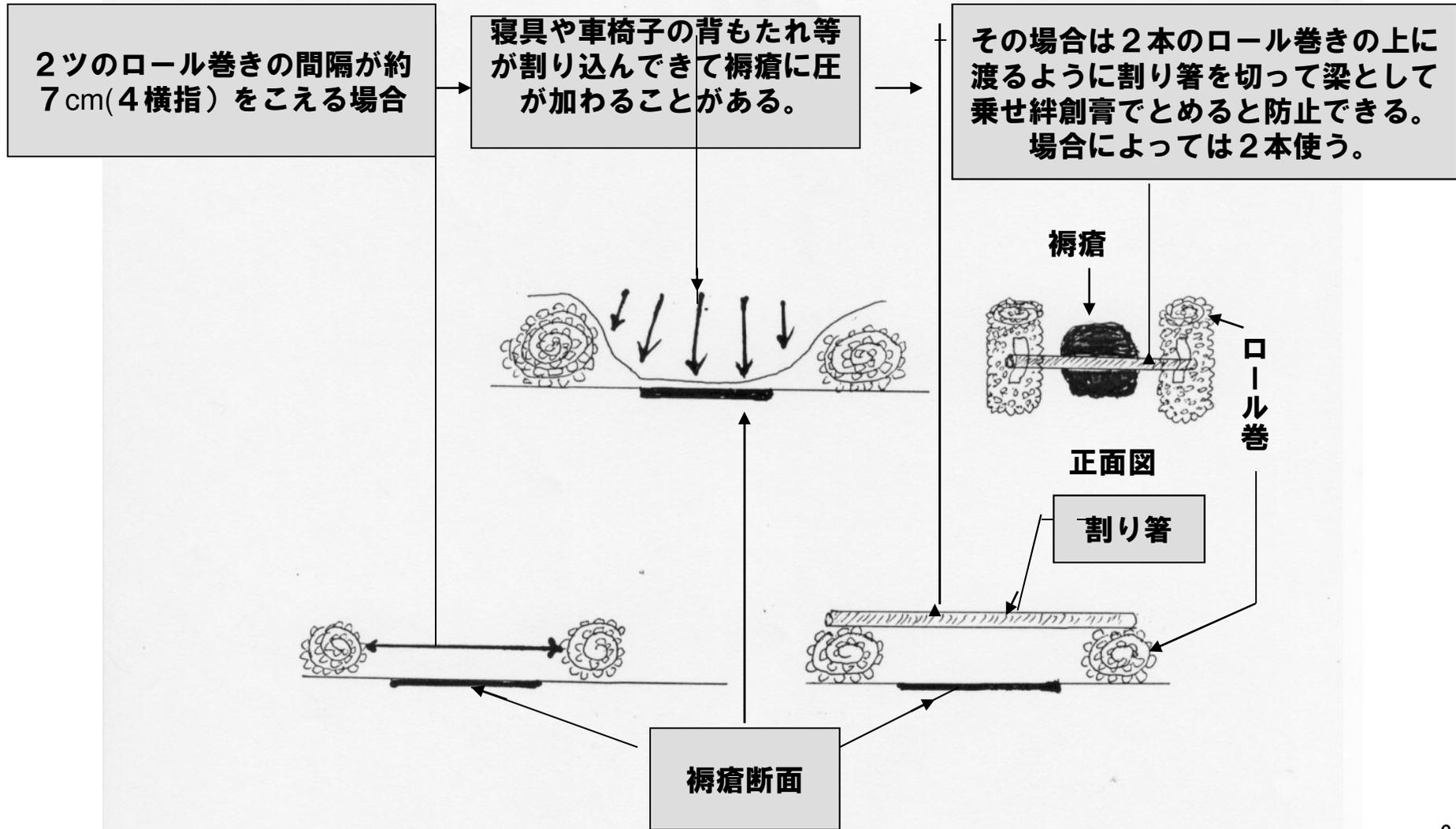


③ 芯入りロール巻きの作り方

短い芯入りロール巻きの作り方



大きな褥瘡の場合

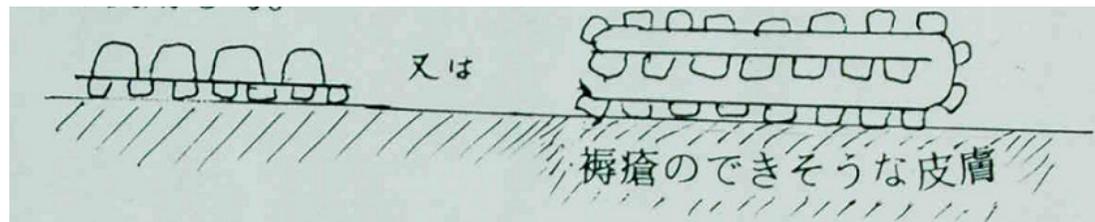


エア・クッション法を有効に行うための注意点

以下の3点です。

- エア・クッションロール巻の高さを充分高くして、体重でつぶれても褥瘡部に圧が加わらないように、ロール巻の高さと位置に注意する。
- エア・クッションの凸部プチプチが褥瘡から少し離れた周囲の皮膚に直接あたり、エア・クッションと皮膚の間にガーゼや衣類等が挟まらないように固定する。
- エア・クッションが、ずれないように幅広絆創膏でしっかり固定する。

* 褥瘡の予防、及び再発防止には、中小プチプチ2層の張り合わせたエア・クッション1枚を褥瘡のできそうな部分に被せる。その際、小型プチプチ突起が皮膚に直接あたるようにする。中小プチプチ2層の張り合わせが作れない時は、小型プチプチ1枚を折り重ねて2～3層にして使用も可。



- 以上のエア・クッション法に併用して、局所療法として病期に応じた適正な軟膏療法を行うことと低蛋白血症、貧血、浮腫の改善等、全身療法を併用すれば、更に治療期間を短縮されることが考えられ、更に血流改善の治療を行えば、褥瘡の治癒が一層早まると予想される。

予防法：体位変換の間隔が5時間までは再発しないことを実証

結語 エア・クッション法のメリット

以下の6点です。

- ① 疼痛等の苦痛を早く取り除けるため、患者自身で体位変換が容易となる。
 - ② エア・クッションは廃物利用も可能で新品を買っても安く、経済的である。
 - ③ 体位変換の間隔を5時間まで延ばすことも可能で、介護人・家族にとって負担軽減となる。
 - ④ 使用法をよく説明すれば家族でも使用可能で、電動エア・マット等の導入前から治療開始できるし、夜間や休日に便等で汚染した時も交換可能。
 - ⑤ 褥瘡の再発予防も可能と思われるので、在宅治療の可能性が増える。
 - ⑥ 高価な褥瘡軟膏治療の期間が短縮されるため医療費の削減になる。
- 今後エア・クッション法の材料の改善や血流の積極的促進法を検討しながら症例を追加していく予定ですが、諸兄の追試とご意見等ご教示いただければ幸いです。

FAX;027-289-0315 (前橋外科医院)